

取扱説明書／保証書

このたびは、アップリカ製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。
この製品は新生児※ から体重15kgまでのお子さま1人用抱っこひもです。

※ここていう新生児とは在胎週数37週以上で、かつ出生時の体重が2.5kg以上で生まれた乳児をいいます。

＜取扱説明書の便利な使い方＞

①

表紙

②

③

各部の名称

各装着方法

・各部の名称と各装着方法が見開きでご覧いただけます。

●使い方の動画は下記でご覧いただけます。
取扱説明書をお読みいただいたてから、動画をご覧ください。

＜ママうで抱っこ＞
首すわり前

＜タテ抱っこ＞
首すわり前

＜タテ抱っこ＞
首すわり以降

＜前向き抱っこ＞
腰すわり以降

＜おんぶ＞
腰すわり以降

・本書に使用しているイラストは、操作方法や仕組みなどを分かりやすくするため、実物とは多少異なる場合があります。
・本書の内容について、誤りや記載もれなどお気づきの点がございましたら、弊社お客様サポートセンターまでご連絡ください。
・製品の品質向上のため、予告なしに一部仕様変更する場合がありますので、あしからずご了承ください。

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〒108-0023 東京都港区芝浦4-9-25 芝浦スクエアビル
ベビー用品 お客様サポートセンター TEL 0120-415-814 携帯電話からご利用の場合(通話料お客様負担) TEL 0570-004-155

使用できるお子さまの月齢および体重について

・SGマーク被害者救済制度の対象は赤矢印でのご使用時です。黒矢印でのご使用時(タテ抱っこで生後14日以降1カ月まで、24カ月を超えてから36カ月までのお子さまに使用)は対象となりません。SGマーク被害者救済制度につきましては本書P3を参照ください。

参考月齢	0カ月 14日	1カ月	(首すわり) 4カ月	(ひとり座り) 7カ月	24カ月	36カ月	体 重
ママうで抱っこ	← 体重2.5kgから7kgまで ホールディングパッド使用 (新生児から首すわり頃まで) →						7kgまで
タテ抱っこ	← 体重7kgまで ホールディングパッド使用 (生後14日以降、かつ体重3.5kg以上から首すわり頃まで) →		← 体重15kgまで ※タテ抱っこで生後14日以降1カ月まで、24カ月を超えて36カ月まではSGマーク制度の対象外です。 →				15kgまで
前向き抱っこ				← 体重13kgまで →			13kgまで
おんぶ				← 体重15kgまで →			15kgまで

・お子さまの発育は個人差がありますので月齢表示は目安にしてください。
・お子さまの衣類の厚みや体格によっては使用できない場合があります。

装着状態と付属品の使用について

ママうで抱っこ
首すわり前
ホールディングパッド使用

タテ抱っこ
首すわり前
ホールディングパッド使用

タテ抱っこ
首すわり以降

前向き抱っこ
腰すわり以降

おんぶ
腰すわり以降

・ホールディングパッドからお子さまの耳の上端が出るようになったら、タテ抱っこにしてください。

・肩ベルトをクロスして装着することもできます。(P17参照)

	Ⓢ 必ず取り付け	○ 取りはしず可能	✕ 取り付け不可	ママうで抱っこ (首すわり前)	タテ抱っこ (首すわり前)	タテ抱っこ (首すわり以降)	前向き抱っこ (腰すわり以降)	おんぶ (腰すわり以降)
ホールディングパッド				Ⓢ	Ⓢ	✕	✕	✕
よだれパッド				穴側を前向きに使用	穴側を前向きに使用	穴側を後向きに使用	穴側を後向きに使用	穴側を後向きに使用
サポートベルト				✕	○	○	○	Ⓢ
おやすみカーテン				✕	○	○	✕	○

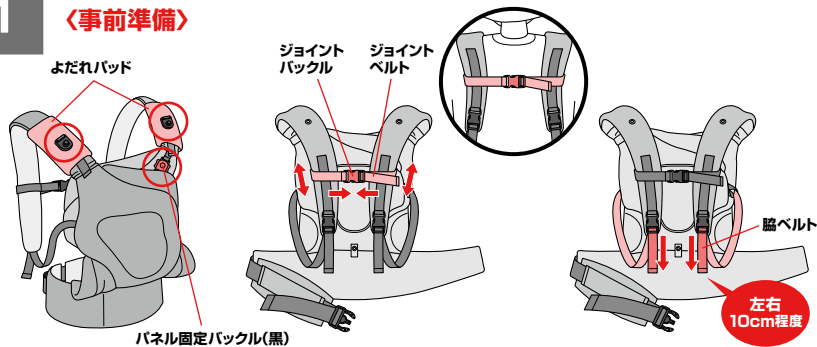
もくじ	
使用できるお子さまの月齢および体重について	1
装着状態と付属品の使用について	1
各部の名称	2
ホールディングパッドの装着方法	2
表示内容について	3
SGマーク制度について	3
点検について／お手入れについて	3
ご使用上の注意	4
バックルの使い方	5
ベルトの調節方法	5
あしらくサポートの使い方	5
よだれパッドの使い方	6
おやすみカーテンの使い方	6
ママうで抱っこ (新生児～首すわりまで(体重2.5kg～7kgまで))	7
首すわりまでのタテ抱っこ (生後14日以降かつ体重3.5kg以上～首すわりまで(体重7kgまで))	9
タテ抱っこ (首すわり以降(体重15kgまで))	11
前向き抱っこ (腰すわり以降(体重13kgまで))	13
おんぶ (腰すわり以降(体重15kgまで))	15
Tips ～ママとお子さまの快適な抱っこのために～	
肩ベルトをクロスして装着する方法	17
肩ベルトクロス装着の際のお子さまの降ろし方	18
快適アジャスターの使い方	18
お子さまの位置や姿勢のポイント	19
Tips ～便利な抱っこひもの使い方～	
本体の折りたたみ方	20
あまったベルトのまとめ方	20
腰ベルトの調節	20
Q&A	21
保証とアフターサービスについて／MEMO	23
保証書	24
取扱説明書の便利な使い方	裏表紙

ママうで抱っこ

新生児～首すわりまで (体重2.5kg～7kgまで)

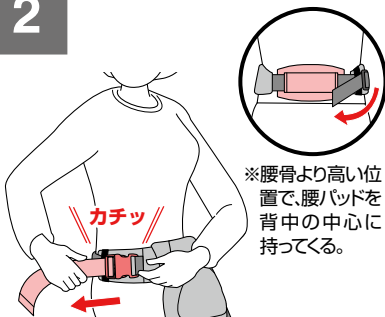
- ・首がおおよそ安定する頃までは、お子さまと目が合わせられるくママうで抱っこ>をおすすめします。
- ・必ず、ホールディングパッドをご使用ください。
- ・必ず、外パネルと内パネルの2枚の間にお子さまをいれてください。
- ・お子さまの頭は使用者の左側にきます。(反対側にはできません。)
- ・ホールディングパッドからお子さまの耳の上端がでようになったら、タテ抱っこにしてください。

1 <事前準備>



- ・よだれパッドは通し穴が肩ベルトの表側にくる向きで使用。(P6参照)
- ・パネル固定バックル(黒)がとまっているか確認。
- ・ジョイントベルトは肩甲骨の下あたりで、肩ベルトがすり落ちない幅に調節して、ジョイントバックルをとめておく。
- ・脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようゆるめておく。

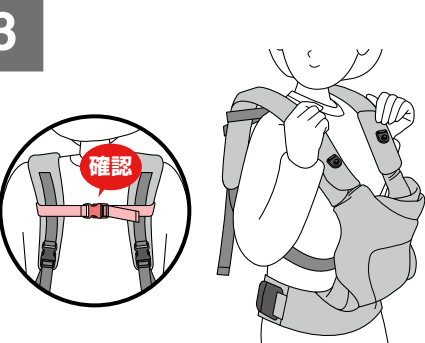
2



腰バックルをとめて腰ベルトの長さを調節する

腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトをループにかける。(P5参照)

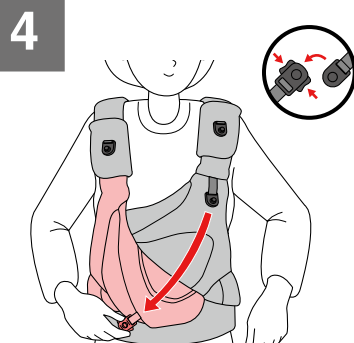
3



抱っこひもを頭からかぶる※

ジョイントバックルがとまっていることを確認し、抱っこひもを頭からかぶる。
※両腕を通したあとに、ジョイントバックルをとめることもできます。

4



パネル固定バックル(黒)をはずす

左胸のパネル固定バックル(黒)をはずし、外パネルをめくる。

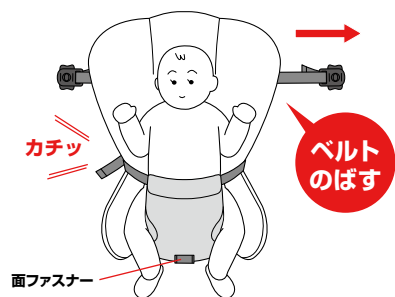
5



左脇ベルトを締め、内パネルを体に添わせ、2枚のパネルの間に空間をつくる

6

※ホールディングパッドの装着方法はP2を参照。

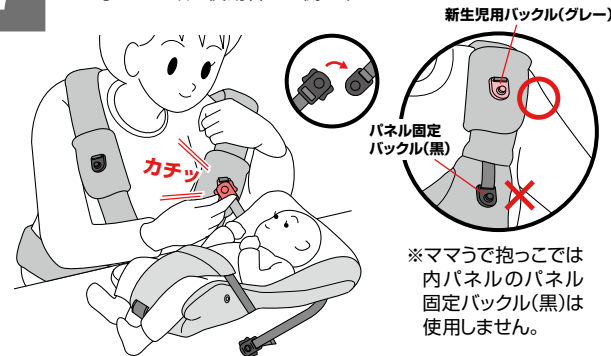


ホールディングパッドの新生児用ベルトをのばす

安全な場所でお子さまをホールディングパッドに乗せ、ホルダーハーネスバックルをとめる。右側のベルトを最も長くしておく。

7

※お子さまの頭は使用者の左側に来ます。



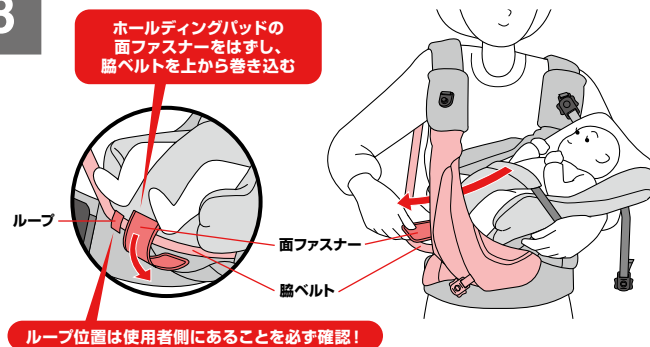
新生児用バックル(グレー)をとめる

ホールディングパッドでホールドしたお子さまを、安全な台の上に横向きにのせ、使用者の左肩の新生児用バックル(グレー)をとめる。

警告

- ・連続して2時間以上は使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
- ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
- 【お子さまが落下するおそれがあります。】
- ・抱っこする時や降ろす時は、安全な場所で低い姿勢で行う。
- ・前傾姿勢時に使用者の体から離れた状態になりやすいため、お子さまを手で支え、頭が下がらないように注意する。
- ・ホールディングパッドを必ず使用し、指定されたバックル類やファスナーを必ずとめる
- ・必ず2枚のパネルの間にお子さまを乗せたホールディングパッドを入れる
- ・寝返りのできるお子さまや、体重7kgを超えるお子さまに使用しない。
- 【お子さまが窒息するおそれがあります。】
- ・お子さまの顔を使用者の身体に強く押し当てた状態にしない。
- ・お子さまを使用者の身体に強く縛りつけた状態にしない。お子さまが頭部を動かす余裕があるように装着する。
- ・気道をふさいでいないか、お子さまの状態に注意しながら使用する。

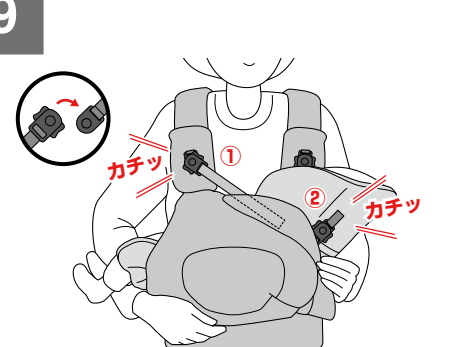
8



お子さまを2枚のパネルの間に入れる

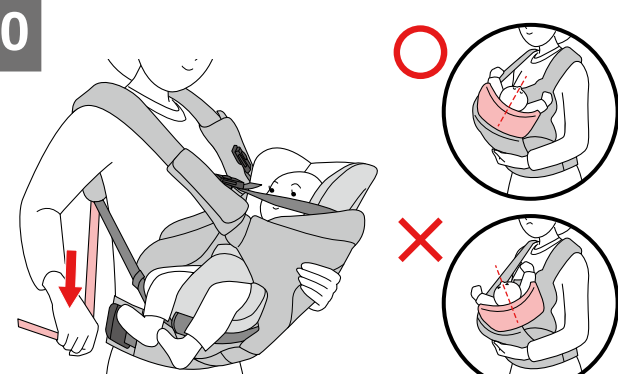
お子さまを乗せたホールディングパッドを、脇ベルトの上に乗せるように、2つのパネルの間に入れる。ホールディングパッドの外側にある面ファスナーで脇ベルトを外から巻き込み、固定する。

9



①使用者右肩の新生児用バックル(グレー) ②パネル固定バックル(黒)をそれぞれとめる

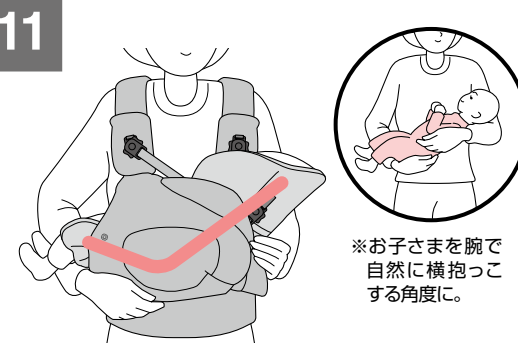
10



右脇ベルトの長さを調節する

お子さまの頭がおしりより高い位置にあること、お子さまが使用者側に向いていること、内パネルがイラストのような位置にきているかを確認する。

11

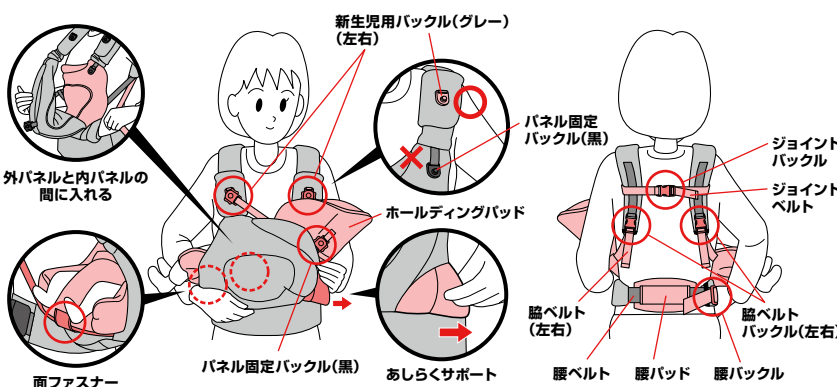


ママうで抱っこの完成

前傾姿勢時に、使用者の体から離れた状態にならないようお子さまを手で支える。

※お子さまを降ろす際は、9から逆の手順で行ってください。その際、ホールディングパッドのはずした面ファスナーは、元の位置にとめてください。

装着のチェックポイント



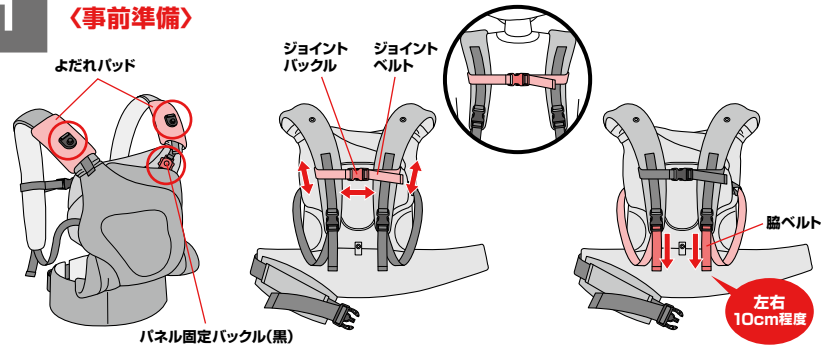
- ホールディングパッドのホルダーハーネスバックルがとまっている。
- 外パネルと内パネルの間にホールディングパッドが入っている。
- 新生児用バックル(グレー)はグレー色のバックルにとまっている。
- お子さまの位置が安定し、頭部が耳までパッドでおおわれている。
- あしらくサポートの股幅は広い状態になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- ホールディングパッドお尻側の面ファスナーは脇ベルトを上から巻きとめている。
- ジョイントベルトの高さが肩甲骨の下あたりにある。
- 腰ベルトが腰骨より高く、腰パッドが背中の中にある。

首すわりまでのタテ抱っこ

生後14日以降かつ体重3.5kg以上～首すわりまで(体重7kgまで)
※生後14日以降1カ月まではSGマーク制度の対象外です。

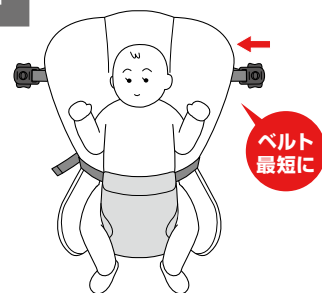
- ・お子さまがママうで抱っこを嫌がるようになったら、く首すわりまでのタテ抱っこをおすすめします。
- ・必ず、ホールディングパッドをご使用ください。
- ・お子さまの耳の上側までホールディングパッドがきていること、頭の全周をサポートしていることを確認してください。
- ・必ず、内パネルの内側にお子さまをいれてください。
- ・安全な台を使って装着してください。
- ・タテ抱っこをする際は、お子さまの首がすわるまで必ず向かい合う姿勢で装着してください。

1 <事前準備>



- ・よだれパッドは通し穴が肩ベルトの表側にくる向きで使用。(P6参照)
- ・パネル固定バックル(黒)がとまっているか確認。
- ・ジョイントベルトは肩甲骨の下あたりで、肩ベルトがすり落ちない幅に調節する。
- ・脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようにゆるめておく。

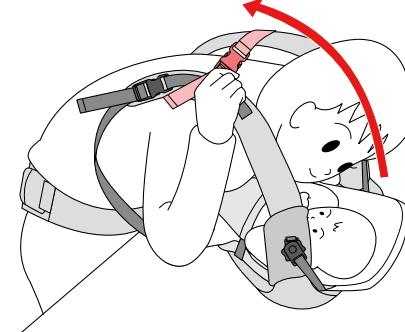
2



ホールディングパッドの新生児用ベルトの長さを短くする

安全な場所でお子さまをホールディングパッドに寄せ、右側の新生児用ベルトの長さを最も短くする。

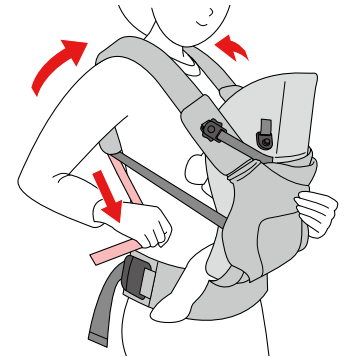
7



両腕を通し、抱っこひもを頭からかぶる※

ジョイントベルトを持ち、抱っこひもに頭をくぐらせる。
※両腕を通したあとに、ジョイントバックルをとめることもできます。

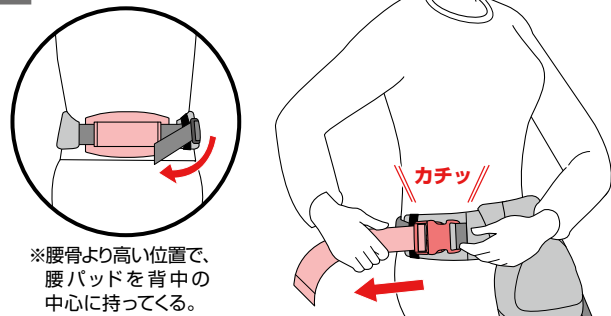
8



左右の肩ベルトをかけて、長さを調節する

脇ベルトの先端をひっぱり、長さを調節する

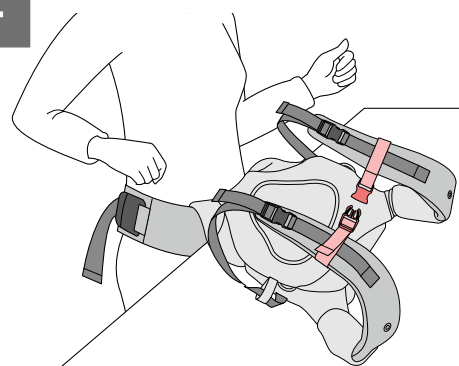
3



腰バックルをとめ腰ベルトの長さを調節する

腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトをループにかける。(P5参照)

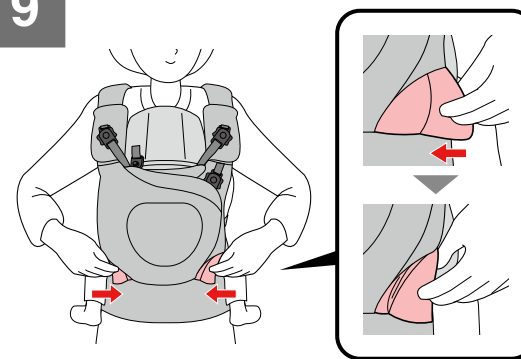
4



抱っこひもの本体部分を台に乗せ、広げる

抱っこひも本体を安全な台の上に寄せ、ジョイントバックルをはずす。

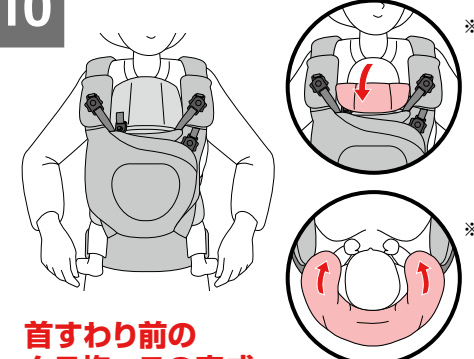
9



股幅調節をせまくする

左右のあしらくサポートの外側を手で持ち、内側のやわらかい生地を中に押し込む。

10

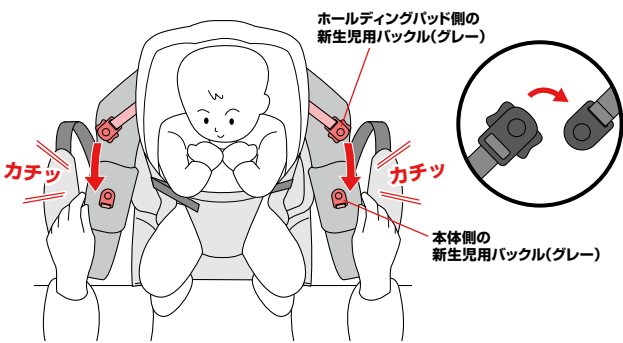


首すわり前のタテ抱っこの完成

最後に外パネル、内パネルの両方を上に引っ張り、ホールディングパッドがしっかり下まで入っていることを確認してください。

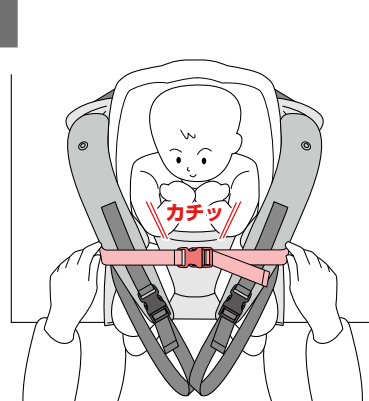
※お子さまを降ろす際は、逆の手順で行ってください。

5



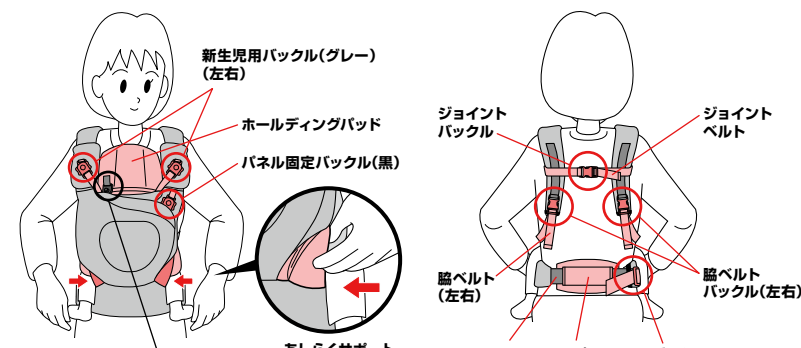
ホールディングパッドに包まれたお子さまを抱っこひも本体の上に寄せ、ホールディングパッド側の新生児用バックル(グレー)と本体側の新生児用バックル(グレー)をとめる

6



ジョイントバックルをとめる

装着のチェックポイント



※タテ抱っこでは、このバックルは使用しません。

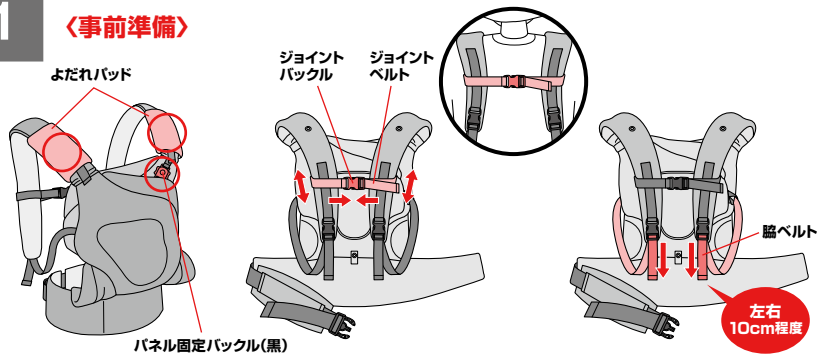
- お子さまがホールディングパッドに包まれて、内パネルの内側に入っている。
- ホールディングパッドのホルダーハーネスバックルがとまっている。
- 新生児用バックル(グレー)はグレー色のバックルにとめられている。
- よだれパッドから新生児用バックル(グレー)が外に出ている。
- お子さまの頭部、首まわりがパッドでしっかり支えられている。
- あしらくサポートの股幅はせまい状態になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- ジョイントベルトの高さが肩甲骨の下あたりにある。

- ・よだれパッドの通し穴を肩ベルトの裏側にしてご使用ください。
- ・肩ベルトを背中クロスさせて使うこともできます。(P17「肩ベルトをクロスして装着する方法」参照)



- ・連続して2時間以上は使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
- ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
- ・腰ベルトと使用者の間にお子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
- 【お子さまが落下するおそれがあります。】
- ・鏡に映して、パネル固定バックル(黒)がとまっているか、正しく装着されているかを確認する。
- ・必ず内パネルの内側にお子さまを入れる。
- ・お子さまと使用者の間にすき間がありすぎたりしないように、ベルトの長さを使用者の身体に合わせて調節する。
- ・お子さまを乗せ降ろす時は必ず安全な場所で行う。
- 【お子さまが窒息するおそれがあります。】
- ・お子さまを使用者の身体に強く縛りつけた状態にしない。
- ・お子さまの顔の周りに十分な空間があり、頭部が動かせるように、脇ベルトの長さや快適アジャスターの長さを調節する。

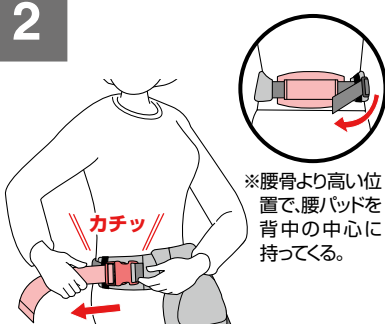
1 <事前準備>



- ・よだれパッドは通し穴が肩ベルトの裏側にくる向きで使用する。(P6参照)
- ・パネル固定バックル(黒)がとまっているか確認。
- ・ジョイントベルトは肩甲骨の下あたりで、肩ベルトがすり落ちない幅に調節して、ジョイントバックルをとめておく。(ジョイントバックルは手順3でとめることもできます。)
- ・脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようにゆるめておく。

●サポートベルトを使用する場合は、P15 1の事前準備をご参照ください

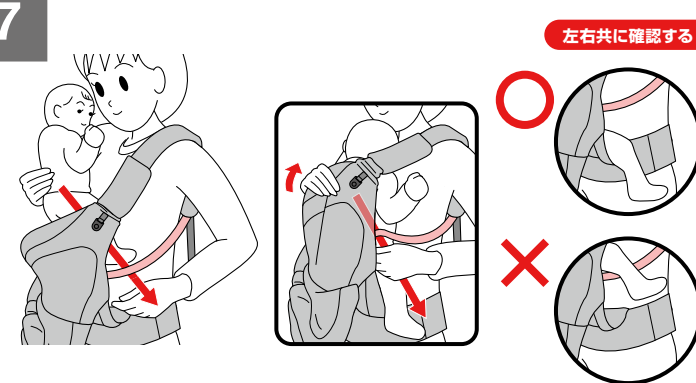
2



腰バックルをとめて腰ベルトの長さを調節する

腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトをループにかける。(P5参照)

7

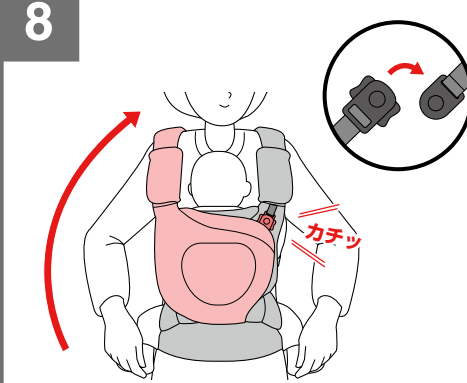


お子さまを内パネルの内側に入れる

内パネルを引っ張り上げながら、お子さまの肩が先に肩ベルトの下に入るように入れる。その際、お子さまの左右の足が脇ベルトの下を通っていることを必ず確認する

●サポートベルトを使用する場合は、お子さまをパネルの内側に入れた後、サポートベルトのバックルをとめてください。

8



右肩ベルトを戻し、パネル固定バックル(黒)をとめる

3

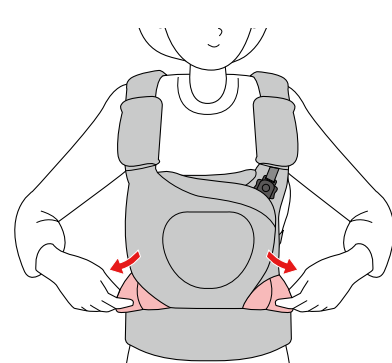


両腕を通し、抱っこひもを頭からかぶる※

ジョイントバックルがとまっていることを確認し、抱っこひもを頭からかぶる。

※両腕を通したあとに、ジョイントバックルをとめることもできます。

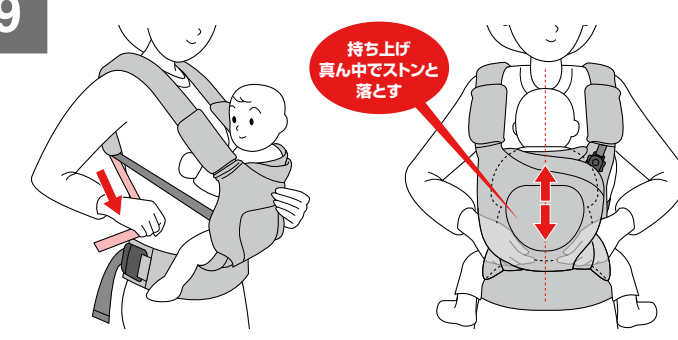
4



股幅調節を広くする

お子さまの足をしっかり支えるために左右のあしらくサポートを広げる。

9



左右の脇ベルトの長さを調節する

脇ベルトの先端をひっぱり、脇ベルトの長さを調節する。

お子さまのお尻を持ち上げパネルの中心に来るように調節する

10

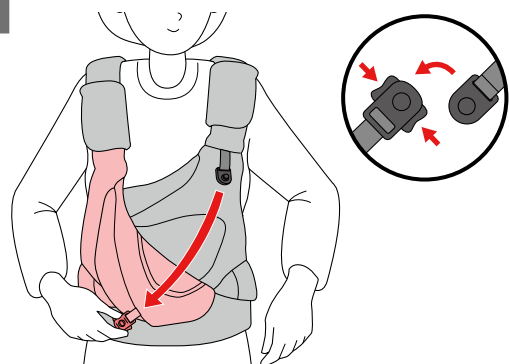


首すわり以降のタテ抱っこの完成

あしらくサポートが広がっているか確認する。

※お子さまを降ろす際は、8から逆の手順で行ってください。または、座った姿勢でお子さまを片手で支えながら、背中のジョイントバックルを先にはずし、お子さまを降ろすこともできます。その際、お子さまが落下しないように十分ご注意ください。

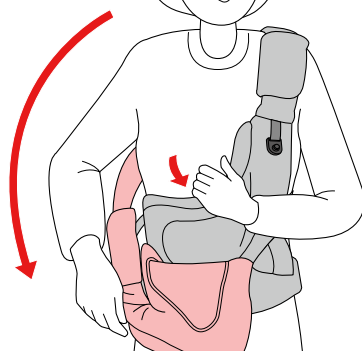
5



パネル固定バックル(黒)をはずす

左胸のパネル固定バックル(黒)をはずし、外パネルをめくる。

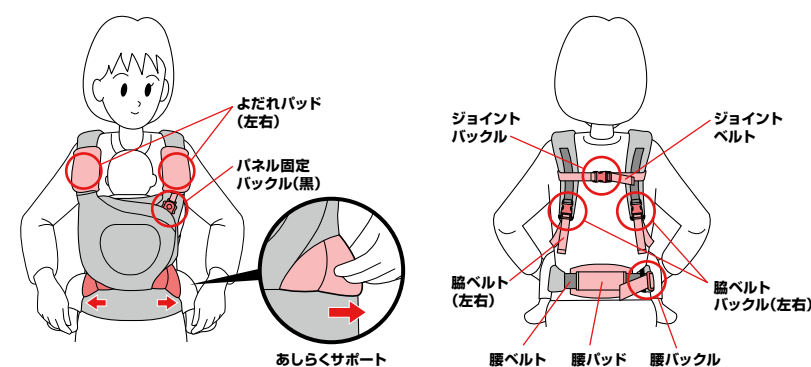
6



右肩ベルトをおろす

お子さまを入れやすいように右肩ベルトを下げ、内パネルと胸の空間をあける。

装着のチェックポイント



- お子さまが内パネルと使用者の間に入っている。
- あしらくサポートの股幅が広い状態になっている。
- よだれパッドの通し穴が肩ベルトの裏側になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- ジョイントベルトの高さが肩甲骨の下あたりにある。
- お子さまの足が脇ベルトの下を通っている。
- お子さまがパネルの中心位置にきている。(左右どちらかに偏っていない。)

前向き抱っこ

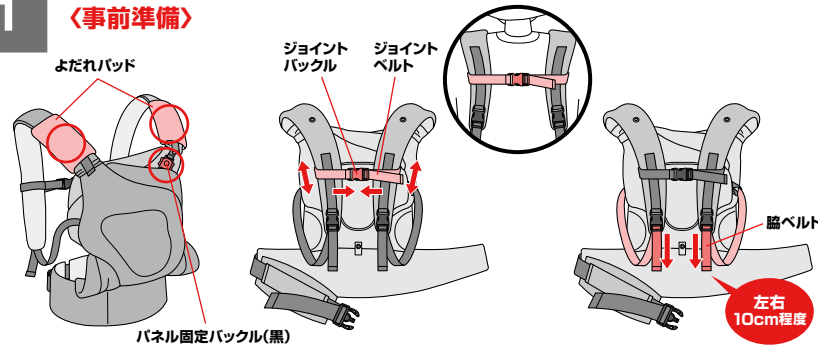
腰すわり以降 (体重13kgまで)

- ・よだれパッドの通し穴を肩ベルトの裏側にしてご使用ください。
- ・前向き抱っこは、前に乗り出す姿勢になりがちでお子さまの身体に負担がかかりやすいため、お子さまの様子を確認しながらご使用ください。



- ・連続して2時間以上は使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
- ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
- ・鏡に映して、股幅調節がせまい状態になっているか、足が動かしやすい状態になっているか確認する。お子さまが体調を損なうおそれがあります。
- 【お子さまが落下するおそれがあります。】
- ・鏡に映して、正しく装着されているかを確認する。
- ・必ず内パネルの内側にお子さまを入れる。
- ・お子さまを乗せ降ろしするときは、必ず安全な場所で行う。
- ・お子さまが反り返ったり、両足が外に出ていないなど、不自然な姿勢をとらせない。

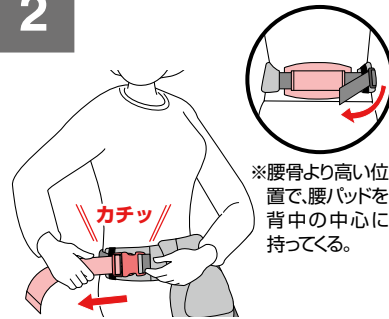
1 <事前準備>



- ・よだれパッドは通し穴が肩ベルトの裏側にくる向きで使用。(P6参照)
- ・パネル固定バックル(黒)がとまっているか確認。
- ・ジョイントベルトは肩甲骨の下あたりで、肩ベルトがすり落ちない幅に調節して、ジョイントバックルをとめておく。
- ・脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るようにゆるめておく。

●サポートベルトを使用する場合は、P15 1の事前準備をご参照ください。

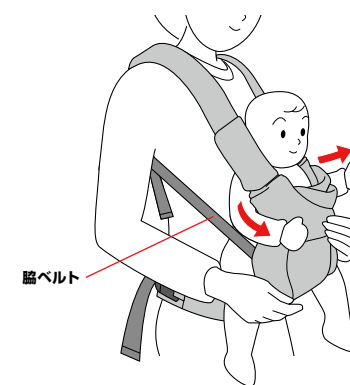
2



腰バックルをとめて腰ベルトの長さを調節する

腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトをループにかける。(P5参照)

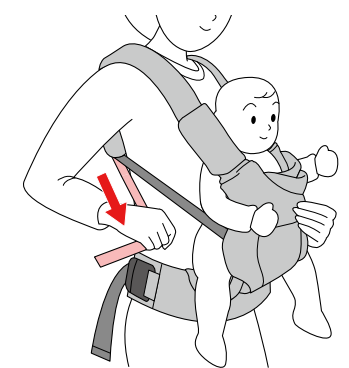
6



お子さまの腕を出す

お子さまの腕が脇ベルトの上を通っていること、お子さまが抱っこひもの中心に乗っていることを確認する。

7



左右の脇ベルトの長さを調節する

脇ベルトの先端をひっぱり、ベルトの長さを調節する。

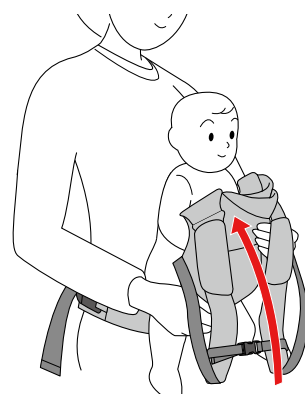
3



お子さまを前向きに抱っこする

※安全な場所で座って装着することをおすすめします。

4

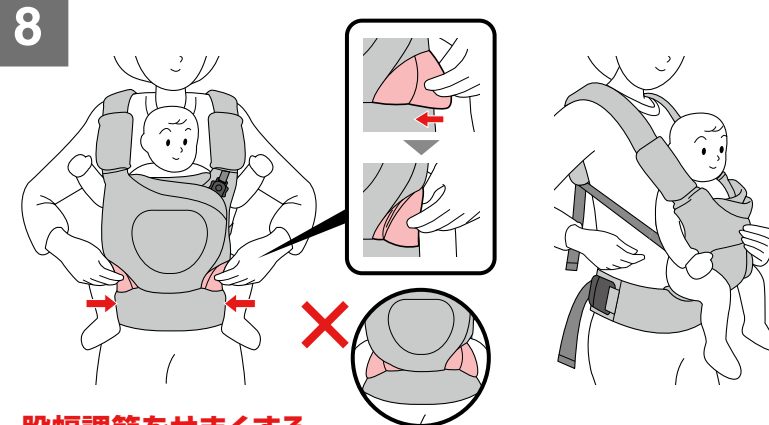


両パネルで、お子さまの体をホールドする

お子さまを片手で支えながら、両パネルを持ち上げて、お子さまの体をホールドする。

●サポートベルトを使用する場合は、お子さまの体をホールドした後にサポートベルトのバックルをとめてください。

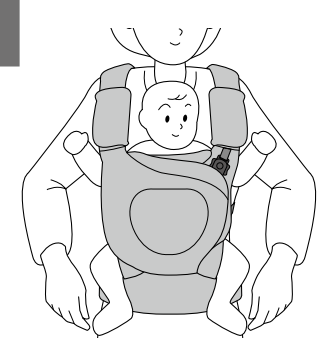
8



股幅調節をせまくする

左右のあしらくサポートの外側を手で持ち、内側のやわらかい生地を中に押し込む。最後に、お子さまの両ももを持ち上げて、膝が前方に向くように座姿勢を調節する。

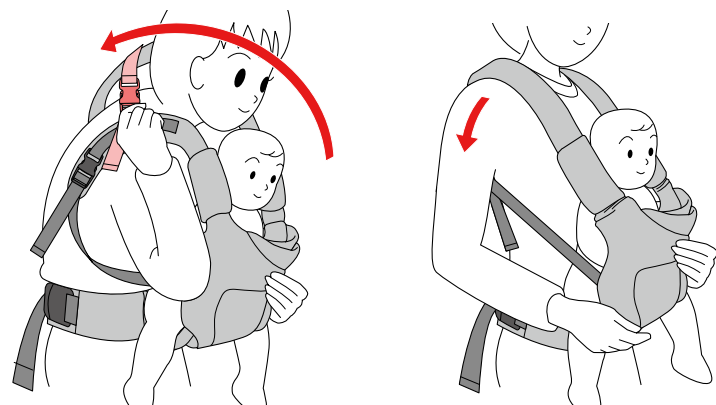
9



前向き抱っこの完成

- ※お子さまを降ろす際は、座った姿勢で行ってください。
- ①必要に応じて片方の快適アジャスターをゆるめる。(P18参照)
- ②お子さまを片手で支えながら、片方の肩ベルトを降ろす。
- ③背中の中のジョイントバックルをはずして、お子さまを降ろす。

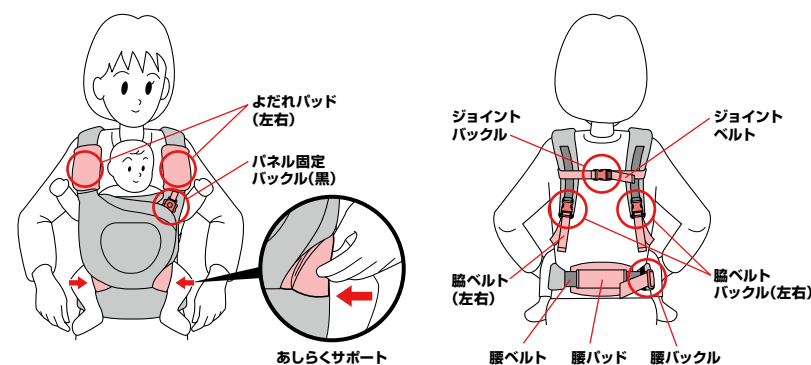
5



両腕を通し、抱っこひもを頭からかぶる

ジョイントバックルがとまっていることを確認してから、ジョイントベルトの中心部分を持ち、頭から肩ベルトをかぶり、左右の腕を通す。

装着のチェックポイント



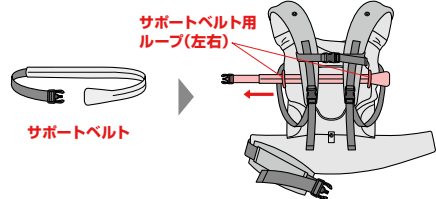
- お子さまが内パネルと使用者の間に入っている。
- お子さまの両腕が肩ベルトの下(脇ベルトの上)から出ている。
- あしらくサポートの股幅がせまい状態になっている。
- よだれパッドの通し穴が肩ベルトの裏側になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- ジョイントベルトの高さが肩甲骨の下あたりにある。
- お子さまの足が脇ベルトの下を通っている。
- お子さまがパネルの中心位置にきている。(左右どちらかに偏っていない。)

- ・よだれパッドの通し穴を肩ベルトの裏側にしてご使用ください。
- ・安全のために、必ずサポートベルトでお子さまをホールドしてください。

ソファなどを使用して装着

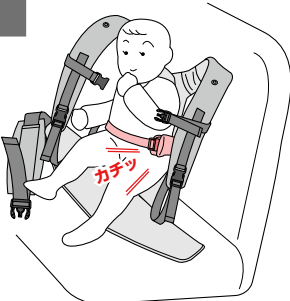
1 《事前準備》

- ・装着前にサポートベルトを必ず準備し、抱っこひも本体に取り付ける。



- ・内パネルの左右のループに、サポートベルトの先端部が引っ掛かる状態まで通しておく。
- ・使用者のサイズに合わせてジョイントベルト、脇ベルトの長さを調節する。(P11 1 参照)

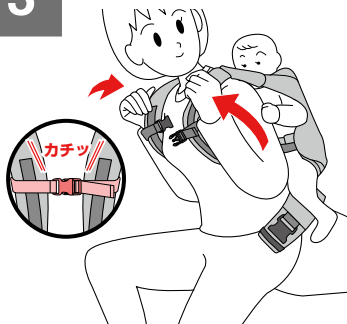
2



抱っこひもを広げ お子さまを座らせる

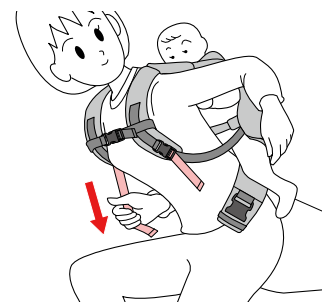
安全な場所に抱っこひもを広げ、お子さまを座らせ、サポートベルトの長さをお子さまの寸法に調節し、バックルをとめる。

3



左右の肩ベルトをかけ、
お子さまを背負い、
ジョイントバックルをとめる
前かがみの姿勢で行う。

4



お子さまのお尻を片手で支えながら
両方の脇ベルトを引っ張り調節する
すわった姿勢のまま、前かがみの姿勢で行う。

5



前かがみの姿勢で腰バックルをとめて 各ベルトの長さを再度調節する

お子さまの足を腰ベルトではさんでいないことを確認する。

6

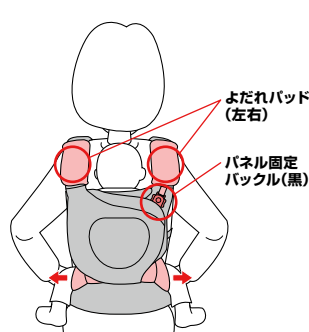
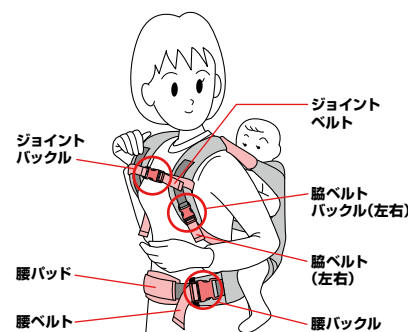


おんぶの完成

鏡などに映して、お子さまの手が脇ベルトの外に出ていないこと、お子さまのお尻が腰ベルトより高い位置にきていることを確認する。

※お子さまを降ろす際は、座った姿勢で逆の手順で行ってください。

装着のチェックポイント



- お子さまが内パネルと使用者の間に入っている。
- お子さまの両腕が肩ベルトの下(脇ベルトの上)から出ている。
- あしらくサポートの股幅が広い状態になっている。
- よだれパッドの通し穴が肩ベルトの裏側になっている。
- 各バックルが確実にとまっている。
- 各ベルトの長さを使用者に合わせて調節している。
- ジョイントベルトが苦しくない位置にきている。
- お子さまの足が脇ベルトの下を通っている。
- お子さまがパネルの中心位置にきている。(左右どちらかに偏っていない。)

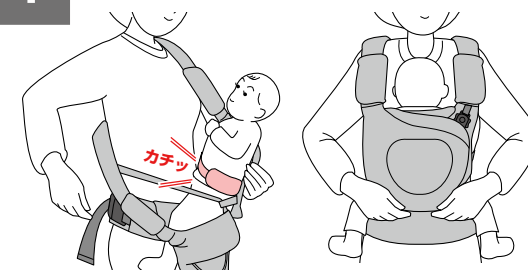
警告

- ・連続して2時間以上は使用しない。お子さまや使用者の体調を損なうおそれがあります。
 - ・授乳後30分以内は使用しない。お子さまのおなかを圧迫することがあり、消化吸収を妨げるおそれがあります。
 - ・鏡に映して、股幅調節が広げた状態になっているか、足が動かしやすい状態になっているか確認する。お子さまが体調を損なうおそれがあります。
 - ・お子さまの状態に注意しながら使用する。気道がふさがると窒息するおそれがあります。
 - ・腰ベルトと使用者の間に、お子さまの足が挟まった状態で使用しない。お子さまの足がうっ血したり、落下するおそれがあります。
 - ・お子さまが眠って、後ろに反り返る場合は、おんぶの使用を中止してください。落下や思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 【お子さまが落下するおそれがあります。】
- ・必ずサポートベルトを使用する。
 - ・お子さまを乗せ降ろすときは、必ず安全な場所で行い、お子さまの腰がすわるまでは、必ずソファなどの安全な台や介添えがある状態で装着する。
 - ・鏡に映して、バックルが止まっているか、正しく装着されているかを確認する。
 - ・必ず内パネルの内側にお子さまを入れる。

タテ抱っこから背中にまわして装着

1

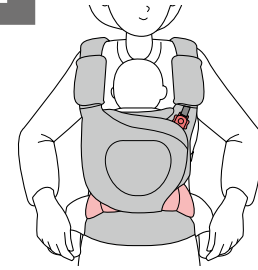
- ・サポートベルトを必ず事前に通しておく。



タテ抱っこを完成させる(P11~12参照)

タテ抱っこをする過程で、「右肩ベルトを下げ、パネル固定バックル(黒)をはずす」際に、お子さまの腰にサポートベルトをまわしてバックルをとめる。お子さまを支えた状態で、左右の脇ベルトを少しゆるめる。

2



パネル固定バックル(黒)と あしらくサポートを確認する

パネル固定バックル(黒)がとまっていること、あしらくサポートが広がった状態であることを確認する。

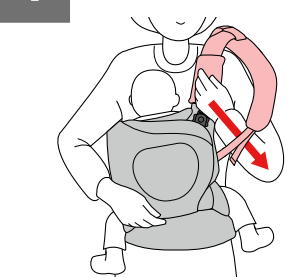
3



右腕を右肩ベルトから 上に抜く

右腕を肩ベルトの下からくぐらせ、そのまま腕を上へ抜く。(必ずお子さまを支えながら行う。)

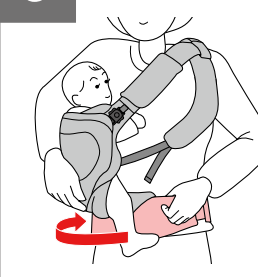
4



左腕を下に抜く

左腕を左肩ベルトの内側にくぐらせ、そのまま下に抜く。(必ずお子さまを支えながら行う。)

5



お子さまを背中に移動する

右手でお子さまを支え、左手で腰ベルトをもち、お子さまを体に添わせながら右腕の下にくぐらせ、背面にゆくり移動させる。(必ずお子さまを支えながら行う。)

注意

- ・背面へお子さまを移動させるとき、左手で腰バックルをつかまない。バックルがはずれる危険があります。
- ・洋服やアクセサリーなどが引っ掛からないように注意する。

6



右腕を入れる

肩ベルトをスライドさせて、肩の位置まで戻す。(肩ベルトがねじれていないか、必ず確認する。)

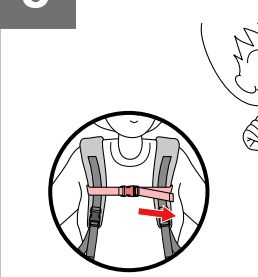
7



左腕を入れる

左腕を左肩ベルトの内側にくぐらせ、そのまま下に抜く。(必ずお子さまを支えながら行う。)

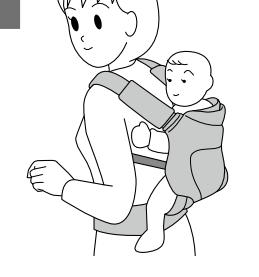
8



前かがみの姿勢で脇ベルト、ジョイントベルトの長さと高さを調節する

脇ベルトはベルトの先端を矢印の方向にひっぱり、ジョイントベルトは使用者の脇の下位置付近に合わせる。

9



おんぶの完成

鏡などに映して、お子さまの手が脇ベルトの外に出ていないこと、お子さまのお尻が腰ベルトより高い位置にきていることを確認する。

※お子さまを降ろす際は、逆の手順で行ってください。

Tips ～ママとお子さまの快適な抱っこのために～

肩ベルトをクロスして装着する方法

※首すわり以降のタテ抱っこのみ、クロス装着できます。

1

脇ベルトバックルをクロスしてとめる
左右の脇ベルトバックルをはずし、左側のバックルは右に、右側のバックルは左にとめ、脇ベルトバックルをクロスさせる。

2

ジョイントバックルをはずす
脇ベルトは、両側ともベルト先端の長さが10cm程度残るように長めに調節する。

3

ジョイントバックルをゴムでまとめる

4

腰バックルをとめ腰ベルトの長さを調節する
腰ベルトは腰バックル横のゴムループの下を通し、余った腰ベルトをループにかける。(P5参照)

5

抱っこひもを頭からかぶる

6

お子さまを内パネルの内側に入れる
お子さまを内パネルの内側に入れる。その時、お子さまの左右の足が脇ベルトの下を通っていることを必ず確認する。

7

左右の脇ベルトの長さを調節する
脇ベルトの先端を左右均等にひっぱり、脇ベルトの長さを調節する。

8

首すわり以降のタテ抱っこの完成
あしらくサポートが広がっているか確認する。お子さまを降ろす際は、逆の手順で行ってください。

肩ベルトクロス装着の際のお子さまの降ろし方

1

パネル固定バックル(黒)をはずす
片手でお子さまを支えながら、パネル固定バックル(黒)をはずす。

2

左右の肩ベルトをはずす
片手でお子さまを支えながら、左右の肩ベルトをはずす。

3

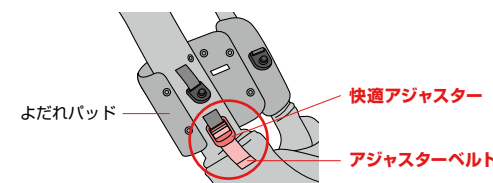
お子さまを両手でおろす

快適アジャスターの使い方

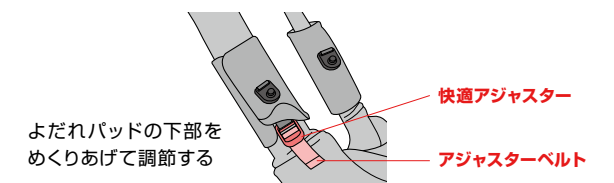
おすすめポイント! ・暑い時に ・フィット感の微調節に ・少しだけ肩ベルトを緩めたい時に

・快適アジャスターは開梱時、よだれパッドでカバーされています。
快適アジャスターベルトをゆるめることで、お子さまと使用者間の距離やフィット感を装着後に微調節できます。
・「ママうで抱っこ」、「タテ抱っこ」、「前向き抱っこ」、「おんぶ」すべての抱っこ時に使用できます。

〈快適アジャスターの位置〉



〈よだれパッドをはずさずに快適アジャスターを調節する〉



〈調節方法〉

・開梱時、快適アジャスターベルトは締めた状態で、先端部がゴムでまとめられています。
ゴムをほどいてから、快適アジャスターベルトを調節してください。

〈ゆるめる場合〉

・アジャスターを少しあげて快適アジャスターベルトをゆるめると、お子さまと使用者の間にスペースができます。

〈締める場合〉

・快適アジャスターベルトを引っ張ると、お子さまは使用者に引き寄せられます。

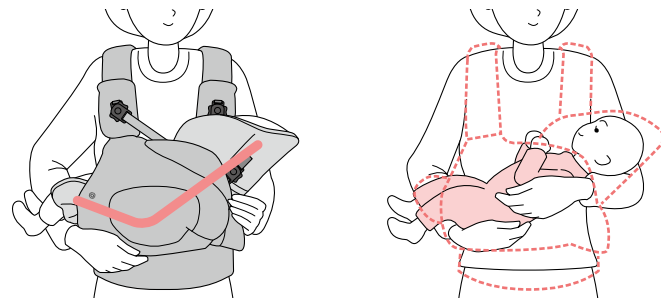
警告

・快適アジャスターを調節した後は必ず、よだれパッドを戻し、バックル類をカバーしてください。
お子さまの口元にバックルがあたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・快適アジャスターを調節した後は必ず、左右の長さが揃っているか確認してください。
安定せず落下の可能性があります。

※イラストはよだれパッドをはずした状態です。

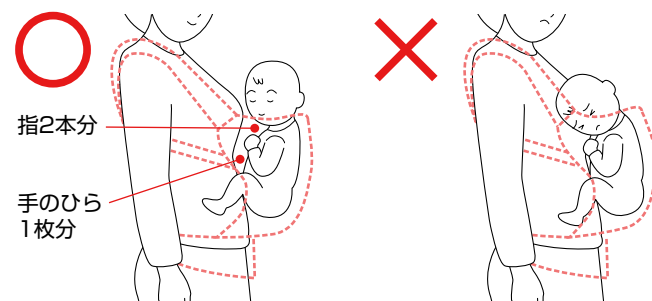
お子さまの位置や姿勢のポイント

＜ママうで抱っこするとき＞



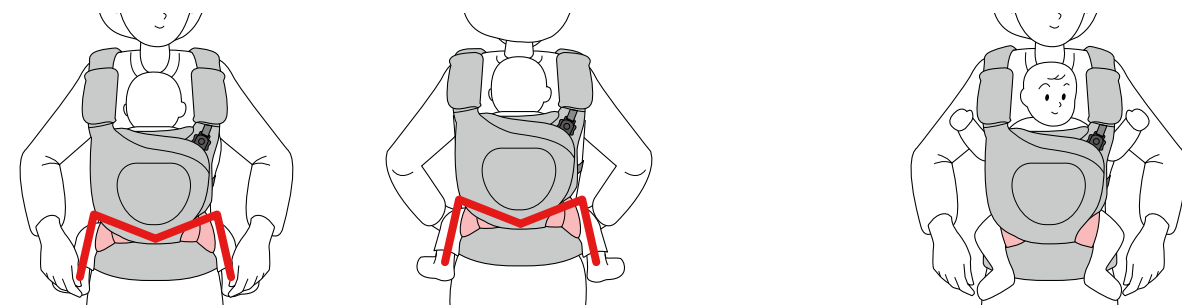
- ・ママうで抱っこは、腕の中で自然に首すわり前のお子さまを抱っこするときの角度です。
- ・お子さまの頭と脚がお尻より高い位置になるように抱っこしてください。(最初に両脇ベルトを少しゆるめに調節しておいてください。)
- ・お子さまの顔や体が少し使用者側に向くようにしてください。

＜タテ抱っこするとき＞



- ・お子さまの呼吸を妨げる姿勢にならないよう、顎の下と胸の間には少なくとも大人の指2本程度のすき間を確保してください。
- ・お子さまの腹部と使用者の間は、手のひら1枚分(首が完全にすわったら、こぶしひとつ分)のすき間を確保してください。

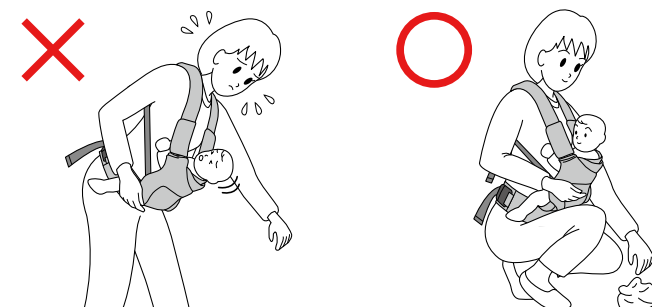
＜あしらくサポートを使用するとき＞



- ・タテ抱っこ、おんぶのとき、あしらくサポートの股幅を広げた状態で抱っこするとお子さまの足が自然なM字型になりやすくなります。

- ・前向き抱っこするとき、あしらくサポートの股幅をせまい状態で抱っこすると、お子さまが足を前にも自由に動かせるようになります。

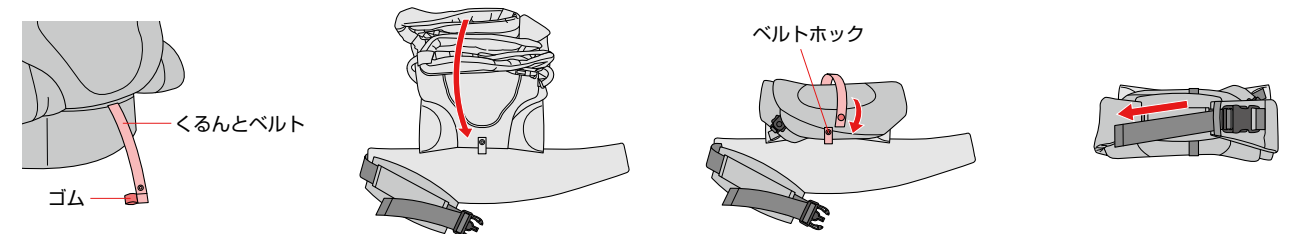
＜前かがみの姿勢になるとき＞



- ・大きく前かがみになる姿勢をとらないでください。かがむ際には、腰を曲げずにひざを曲げて、お子さまが落下しないように注意してください。
- ・体を傾けるときは、必ずお子さまを手でしっかり支えてください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

本体の折りたたみ方

＜本体のみで折りたたむ＞ ※ホールディングパッドを取り付けたまま、折りたたむことはできません。



- ①くるんとベルトを収納ポケットから取り出し、ゴムをほどく。
- ②左右の肩ベルトをまとめて、折りたたむ。
- ③くるんとベルトを巻き付け、ベルトフックにとめる。
- ④腰バックルをとめて、腰ベルトを調節する。

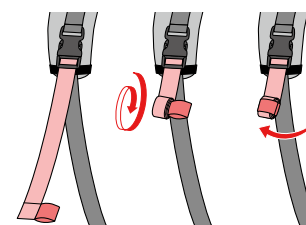
＜装着状態で折りたたむ＞



- ①くるんとベルトを収納ポケットから取り出し、ゴムをほどく。
- ②左右の肩ベルトをまとめて、折りたたむ。
- ③くるんとベルトを巻き付け、ベルトフックにとめる。
- ・腰ベルトを着用したままでもご使用いただけます。

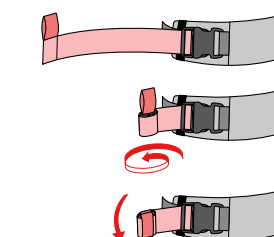
あまったベルトのまとめ方

＜脇ベルトバックル用ベルト・快適アジャスター用ベルト・くるんとベルト＞



- ・余ったベルトを折りたたみ、先端のゴムでまとめる。

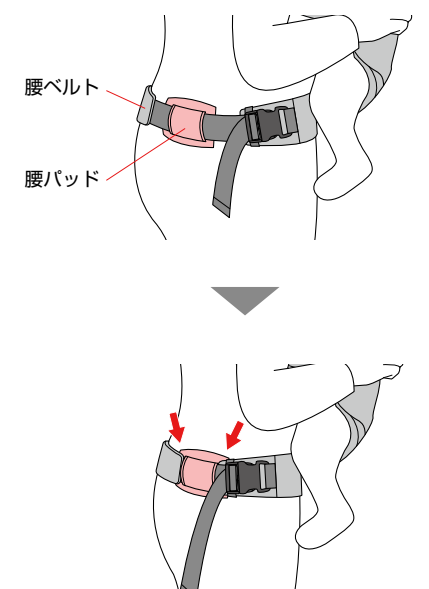
＜腰バックル用ベルト＞



- ・余ったベルトを折りたたみ、先端のゴムでまとめる。

警告
・あまったベルトは適度な長さにまとめる。ベルトが巻き込まれたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

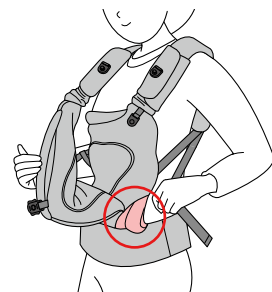
腰ベルトの調節



- ・腰ベルトを小さくしたい場合は、図のように腰パッドと腰ベルトを重ね合わせて腰回り寸法を小さくすることができます。

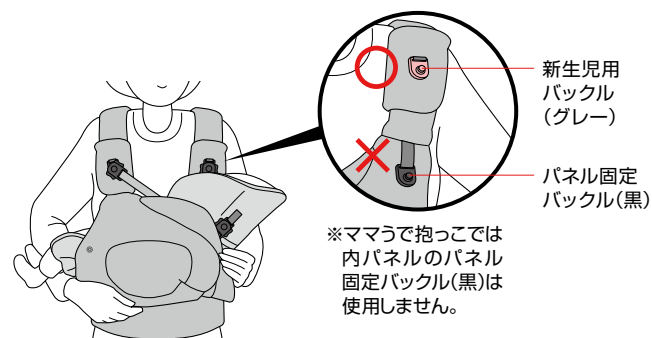
Q ママうで抱っこで、内パネルを身体にフィットさせるように調節した際に、あしらくサポートがだぶつく状態になりますが。

A ママうで抱っこの構造上、ご使用者の身長や体格によって、生地がだぶつく状態になる場合がありますが、そのままご使用いただけます。



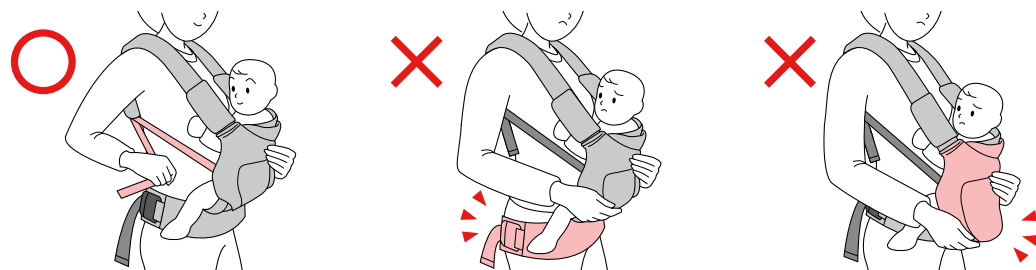
Q ママうで抱っこのとき、子どもが真横に寝た角度になってしまうのですが。

A 平らな状態でもお使いいただけますが、頭が下がりがすぎないように注意してください。
新生児用バックル(グレー：上)とパネル固定バックル(黒：下)をつけ間違える、あるいは快適アジャスター(P18参照)が緩んだ状態のままでママうで抱っこをすると、お子さまの頭が低くなり平らに近い角度になってしまいます。ママうで抱っこの角度はこれらを確認した上で、左右の脇ベルトの長さを調節してください。



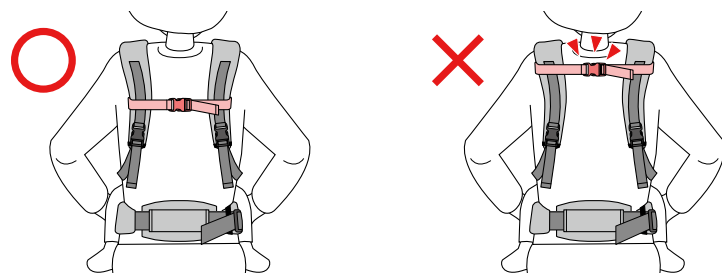
Q 腰ベルトはどのあたりに装着すればよいですか？

A 腰ベルトは、腰骨より少し高い位置に装着してください。その際、お子さまのお尻が腰ベルトより下がらないように脇ベルトの長さも調節してください。使用者やお子さまの身長・体格にもよりますが、腰ベルトはなるべく水平になるように調節してください。



Q タテ抱っこのときに、肩や首のあたりに負担がかかるのですが。

A 腰ベルトがゆるんでいないか、ジョイントベルトの位置が高くなりすぎていないか、確認してください。装着前にジョイントベルトの位置を下記の図のような位置に調節してください。ジョイントベルトの位置、腰ベルトの位置によって肩と腰の負担のバランスが変わります。



Q 首すわり以降の赤ちゃんを横から入れようとするとき、うまく入れることができません。

A タテ抱っこのときは、両方の脇ベルトを少しゆるめに調節してから装着すると、横からお子さまを入れるときに空間が作りやすいため、入れやすくなります。

Q タテ抱っこのとき、子どもの体が埋もれる感じになり、顔が見えない状態ですが、このまま使用していいですか？

A お子さまの身長に対して、抱っこひもの背部が長い場合は、お子さまのお尻の下にタオルなどを敷いて、お子さまの高さを調節してあげてください。また、腰ベルトを少し高めウエストあたりに装着するようにしてください。

Q タテ抱っこのとき、子どもの肩が外に出てしまうのですが、大丈夫でしょうか？

A お子さまの肩はできるだけ外に出ない方が、より安全です。どうしても出てしまう場合は、バックルがはずれていないか、ベルトに緩みがないかを必ず確認した上でご使用ください。腰すわり前のお子さまの場合は上半身が不安定ですので、手で支えるようにしてあげてください。

Q 抱っこひもの生地と子どもの肌が触れる部分が赤くなる時があるのですが。

A お子さまのお尻が腰ベルトより下がっていたり、着衣や紙おむつなどが原因になっている場合があります。まずは装着状態をご確認ください。それでもお子さまの肌に抱っこひもの跡がついたり、肌がこすれて赤くなる場合は、肌の露出部をおおう服を着せるか、露出部にタオルなどを当てて、抱っこひものが直接触れないようにしてください。

Q 首すわり以降、よだれパッドの装着向きを変えずに使用してもよいですか？

A 安全にご使用いただくために、よだれパッドは必ず通し穴、ホック部分が裏側にくる状態でご使用ください。

Q あしらくサポートがうまく調節できないのですが。

A P5「あしらくサポートの使い方」を参照してください。あしらくサポートの外側(クッションの入っている部分)のやや上側を手で持ち、内側のやわらかい生地を中へ押し込みます。

・保証期間中(購入日より1年間です。)に部品の欠品、不良加工など弊社の責任によるもの、取扱説明書や注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、保証規定にもとづき無償にて対応を致します。
ただし、部品の色・柄などについては、ご希望に添えない場合があります。また、製造中止後の製品については、対応出来ないこともあります。

アフターサービスについての連絡先

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〈電話連絡先〉

ベビー用品 お客様サポートセンター TEL **0120-415-814**

携帯電話からご利用の場合（通話料お客様負担）TEL **0570-004-155**

受付時間：AM10：00～PM5：00（土、日、祝日、弊社所定休日を除く）

ニューウェルブランズ・ジャパン合同会社

〈電話連絡先〉

ベビー用品 お客様サポートセンター TEL 0120-415-814

携帯電話からご利用の場合（通話料お客様負担）TEL 0570-004-155

受付時間：AM10：00～PM5：00（土、日、祝日、弊社所定休日を除く）
